

市民アンケートと市民検討会の実施結果

1. 市民アンケートの実施結果

(1) 趣旨

札幌駅交流拠点再整備構想の検討にあたり、一般的な市民意見の傾向を把握するためにアンケート調査を行った。設問は主に将来（おおそ20年後）の札幌駅周辺地区に望む機能やイメージに関する内容である。

(2) 主な設問

訪問頻度、交通手段、訪問の目的

重視すべき機能

（20年後を見据えて）

札幌市の顔やイメージを高めるために必要なこと

自由意見

回答者属性

札幌駅周辺地区のおおよその位置



(3) 調査対象

アンケート配布対象者は、全札幌市民から無作為抽出された2,000人

(4) 調査方法など

調査期間：平成22年1月8日発送

回収締め切り2月20日（消印有効）

調査方法：調査票の郵送

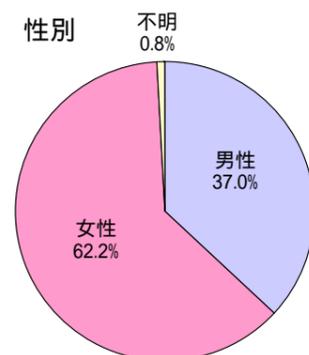
回収：郵送により回収

発送部数：2,000部

回収数：498人

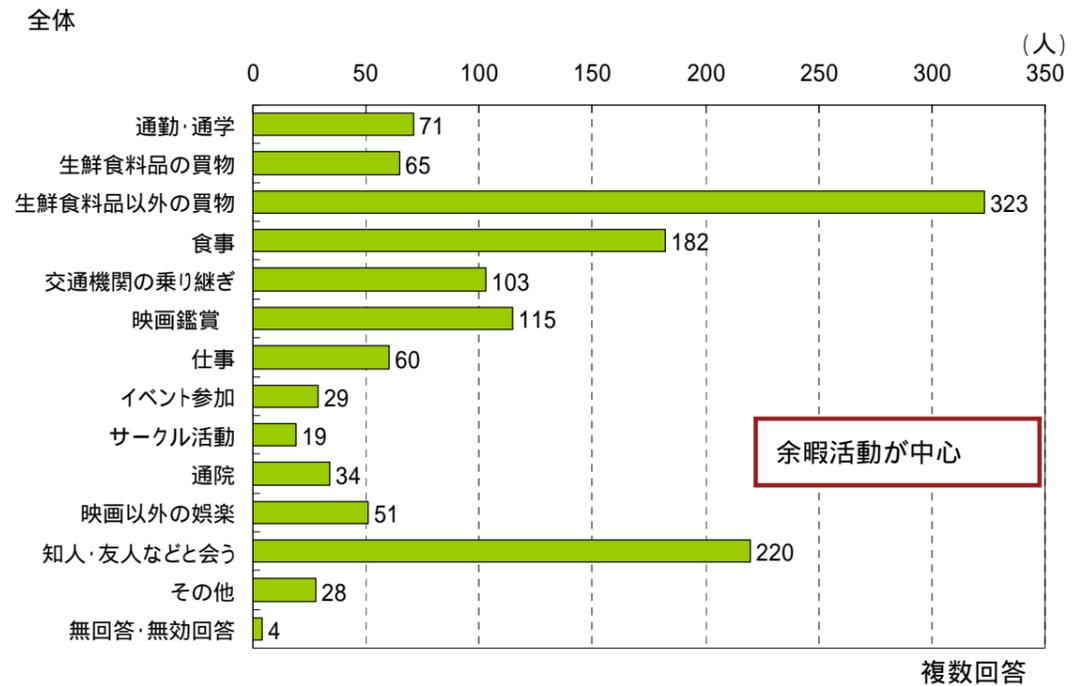
回収率：約24.9%

(5) 回答者の属性

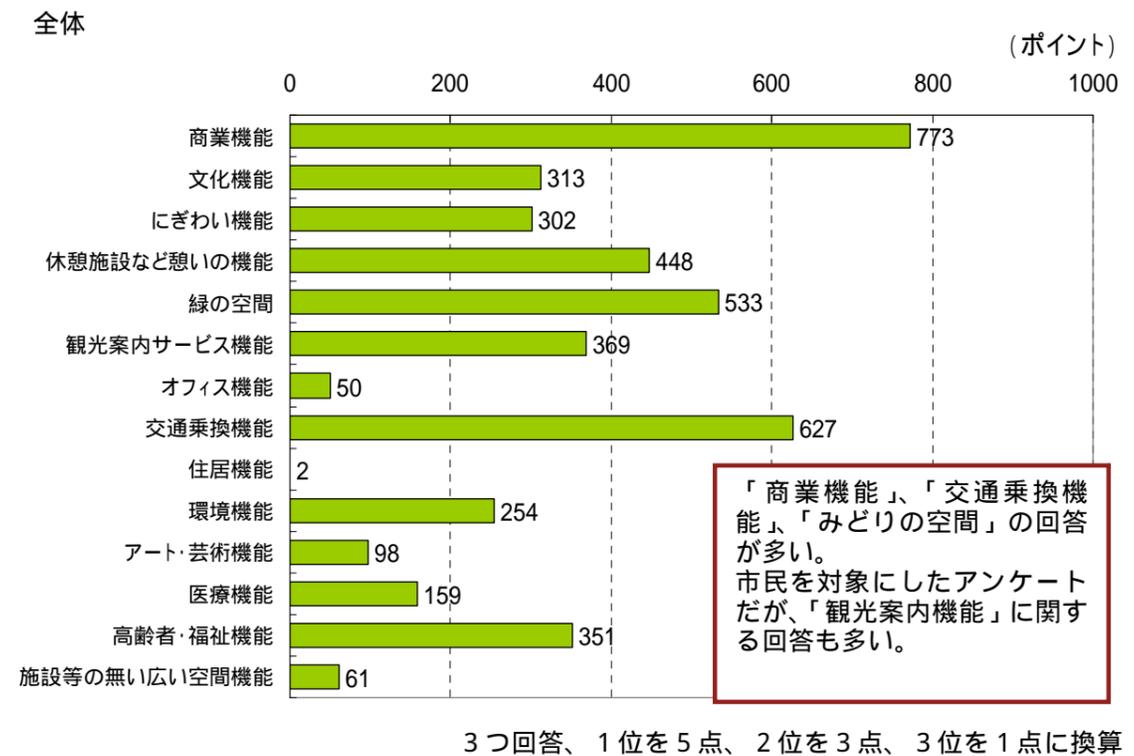


(6) 回答結果

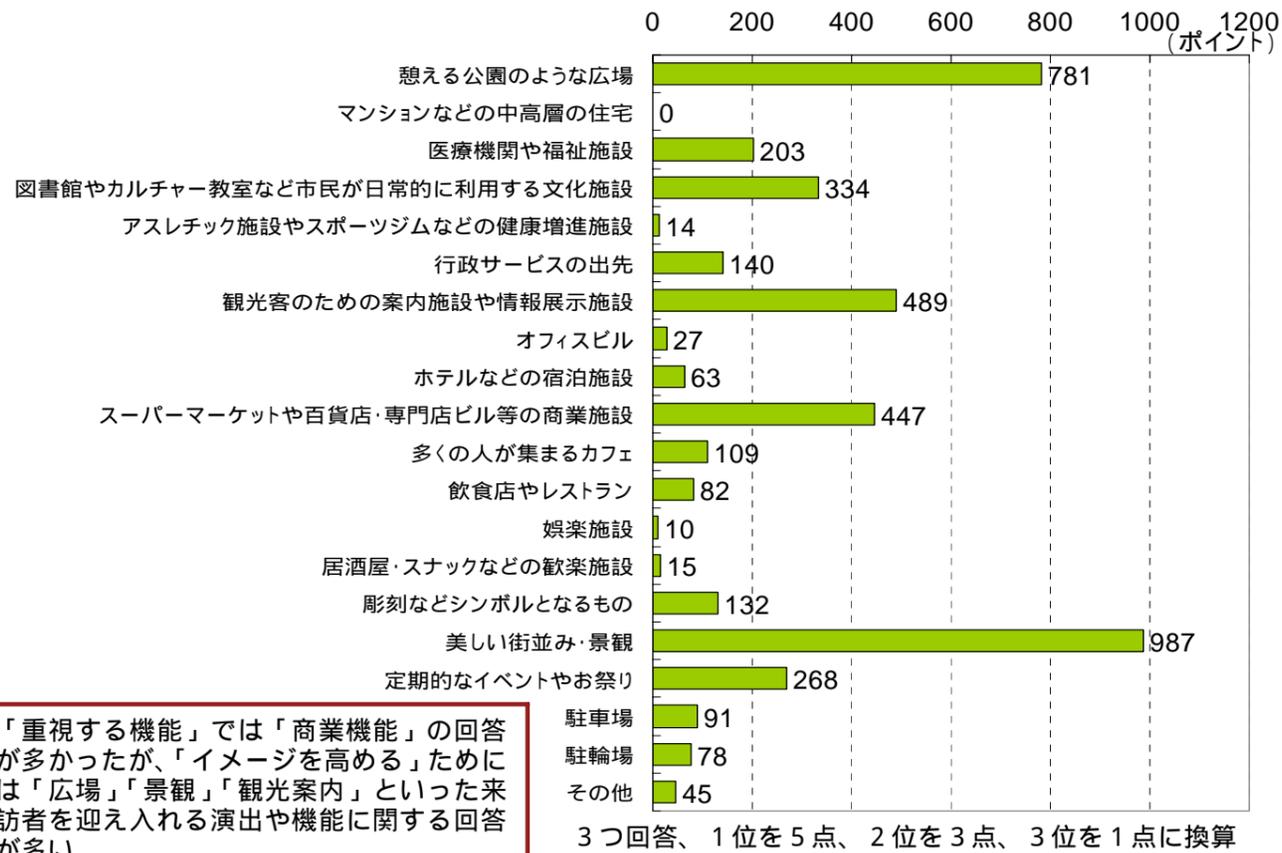
Q1：札幌駅周辺地区に訪れる目的は何か



Q2：20年後を見据えた場合、重視すべき機能は何か



Q3：札幌の顔・シンボルとしてイメージを高めるために必要なもの



「重視する機能」では「商業機能」の回答が多かったが、「イメージを高める」ためには「広場」「景観」「観光案内」といった来訪者を迎え入れる演出や機能に関する回答が多い。
ここでも普段市民が利用する機会の少ない「観光機能」に対する関心が比較的高い。

(7) アンケート結果の考察

「重視すべき機能」に対する回答から、市民の多くは「商業機能」や「交通乗換機能」などの日常的な機能を重視していることがわかる。

その一方で、札幌駅周辺地区の「イメージを高める」ためには、「広場」「景観」「観光案内」といった来訪者を迎え入れる演出や機能が必要とする意見が多い。

自由回答では、来訪者を迎え入れる機能に関する回答が最も多く、次いで利便性に関する意見、観光・文化機能に関する意見が多い。

「重視すべきもの」「イメージを高めるために必要なもの」「自由回答」の回答結果から特徴的な内容として、普段市民が利用する機会の少ない観光案内・情報展示施設などの「観光機能」に関する回答が比較的多いことが挙げられる。札幌市民にとっての観光に対する重要性・関心が高まってきていることがわかる。

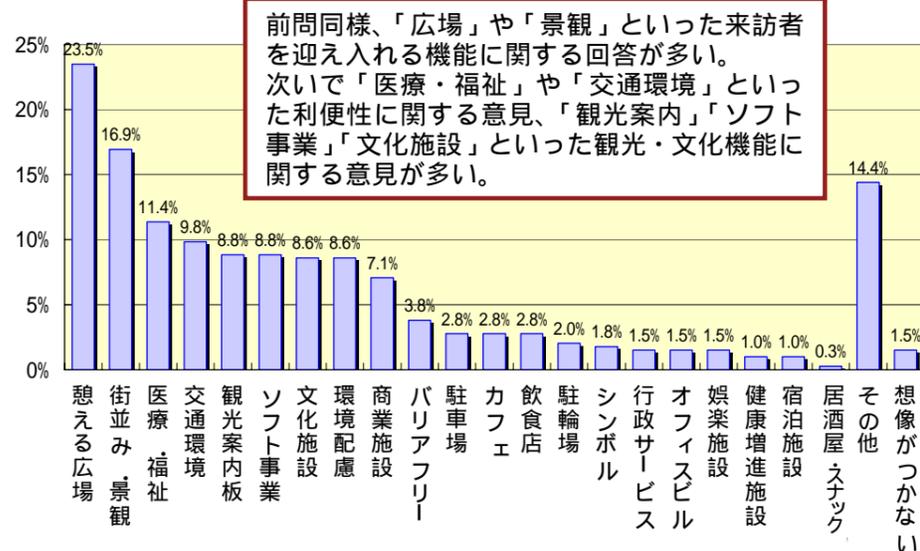
本調査はアンケート票の2,000人に郵送による調査であったが回答者数が498人（回答率24.5%）と4人に1人が返送により回答している。さらに、設問「自由回答」の記載者数が全回答者498人のうち、396人（記載率79.5%）と非常に高いことから、札幌駅周辺地区の将来に対する市民の関心の高さがうかがえる。

本調査からわかった「札幌駅周辺地区の将来に対する市民の関心の高さ」は、これまで札幌市が市政情報を積極的に提供して、市民の理解と関心を高めるために努めてきた結果が反映されているものと考えられる。

札幌市の情報公開度は「第12回情報公開度ランキング政令市総合ランキング（2007年度）」で全国3位、「第11回情報公開度ランキング政令市総合ランキング（2006年度）」で全国1位となっている（全国市民オンブズマン連絡会議発表）。

Q4：20年後の札幌駅周辺のまちづくりについて（自由回答）

自由回答の回答者数が498人中396人（79.5%）と非常に高いことから、札幌駅周辺地区の将来に対する市民の関心の高さがうかがえる。



前問同様、「広場」や「景観」といった来訪者を迎え入れる機能に関する回答が多い。
次いで「医療・福祉」や「交通環境」といった利便性に関する意見、「観光案内」「ソフト事業」「文化施設」といった観光・文化機能に関する意見が多い。

自由回答の内容から各種キーワードを抽出してポイント化

2. 市民検討会の開催結果結果

(1) 市民検討会の考え方

市民検討会の目的

情報共有を行った上で一般的な市民意見の傾向を把握することが目的。

札幌駅交流拠点は多くの人々が行き交うエリアである。そこで市民が札幌駅周辺地区にどのような期待を持っているか一般的な傾向を把握するため、市民検討会を開催した。

「札幌駅交流拠点再整備構想案」では、北海道新幹線の札幌駅乗入れや路面電車の延伸、北5条西1丁目街区の土地利用など不確定要素が多く、それらが複雑に関連していることから、市民に対して直接情報を提供して質疑応答などを行いながら、市民と情報共有を進めることが効果的であると考えられる。加えて本構想はおおよそ20年後を想定していることから、市民参加では将来を想像しながらアイデアや意見を出してもらうことも必要であるため、ワークショップ形式での検討が効果的である。

参加者の選定

無作為抽出により、30名の市民が参加。

市民検討会は、一般的な市民傾向を把握することが目的である。そのため、市民検討会の参加者については、性別や年齢、住まいなどバランスのとれた市民が参加する形式とした。具体的には、無作為抽出により選出された18歳以上の市民2,000名へ参加を呼びかけ、参加承諾をした127名の中から年齢、性別、住居区を考慮し抽選で30名の参加者を決定した。

グループ分けについて

各グループの参加者の年齢、地区、男女の割合を均等に。

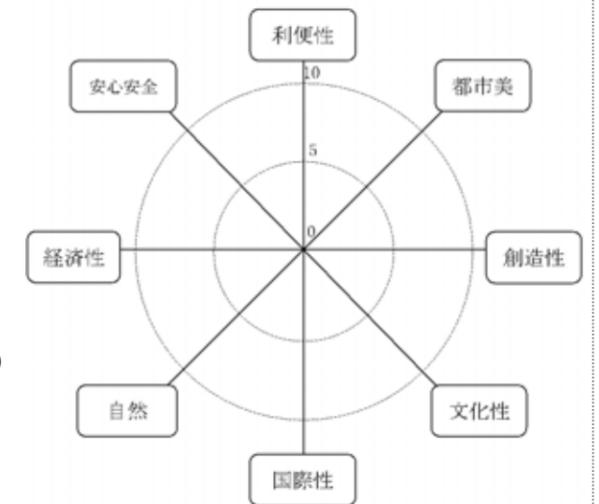
最終的に選出された30名を、年齢、居住地区、男女をバランス良く均等にグループ分けすることで、多様な価値観を共有し、様々な意見を引き出せる環境とした。

(2) 市民検討会の開催概要

第1回市民検討会の開催概要

- ✓ 開催日時 平成22年2月13日(土)
- ✓ 場所 札幌市役所6階会議室
- ✓ 参加者数 27名
- ✓ 情報提供
 - 「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定の目的と位置づけ
 - 社会的潮流について
 - 札幌駅交流拠点の経緯
 - 札幌都心の現状
 - 都心まちづくり戦略の考え方
 - 新幹線の延伸について
 - 札幌市のポジション(世界、日本、北海道の視点)
- ✓ ディスカッションのテーマ
 - 札幌駅周辺の残したいもの
 - 20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿

さっぽろ・都市のイメージ評価シート
市民意見を評価シートで類型化して
意見傾向を把握した。



第2回市民検討会の開催概要

- ✓ 開催日時 平成22年2月21日(日)
- ✓ 場所 札幌市役所6階会議室
- ✓ 参加者数 27名
- ✓ 情報提供
 - 第1回市民検討会の結果概要
 - 市民アンケート調査結果の概要
 - 世界の都市事例(世界都市、創造都市)
 - 世界の都市事情(産業転換、郊外化、縮小都市など)
- ✓ ディスカッションのテーマ
 - 20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿(主に自然、創造性、文化性、国際性)

第1回市民検討会
での結果を踏まえ
て、ディスカッショ
ンのテーマを設定



(3) 第1回市民検討会の結果

プログラム

10:00	主催者あいさつ(5分)	日時：2月13日(土) 場所：札幌市役所 6階会議室 参加者：27名
10:05	オリエンテーション(15分) ・スタッフ紹介、スケジュール、プログラム説明	
10:20	評価シート等記入(10分) ・参加者全員に「さっぽろの都市イメージ」について8つの項目で評価してもらい、テーブル毎にまとめた。	
10:30	情報提供その1(60分) ・「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定の目的と位置づけ ・社会的潮流について ・札幌駅交流拠点の経緯 ・札幌都心の現状 ・都心まちづくり戦略の考え方 ・新幹線の延伸について	
11:30	ウォーミングアップ(30分) ・評価シートのまとめ	
12:00	昼食(60分)	
13:00	情報提供その2(30分) ・新幹線の延伸について ・札幌市のポジション(世界、日本、北海道の視点)	
13:30	午後の進め方説明(5分)	
13:35	テーブルディスカッション(55分) ・20年後も残したいものとあるべき姿について、テーブルディスカッションを行い、各テーブルごとに3つの短冊にまとめた。	
14:30	まとめ発表(30分)	
15:00	終了	

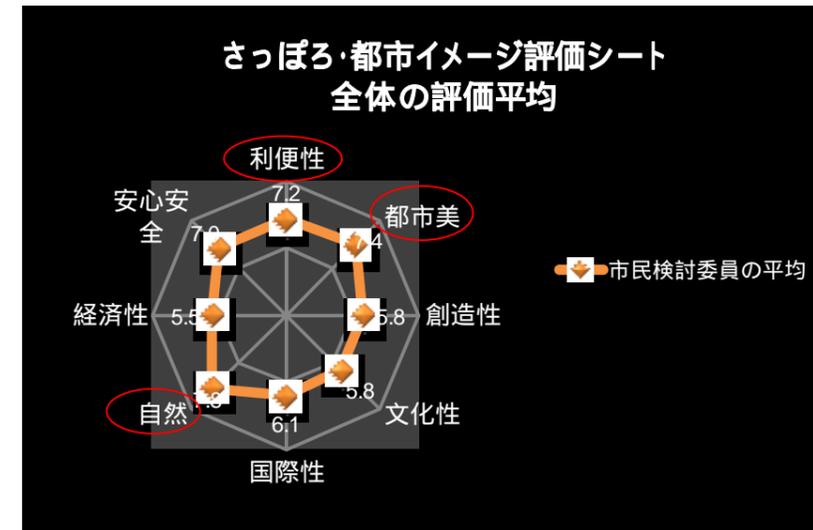
さっぽろ・都市イメージ評価

下図の評価シートは、参加者への情報提供や議論を行う前に、参加者が現在感じている札幌都心のイメージについて10段階で評価した結果である。なお、評価の数値は、参加者全員の評価点数を平均化したものである。

【結果】

- ・さっぽろ・都市のイメージで、最も評価が高かった項目は「自然」であった。次いで、「都市美」「利便性」と続いている。
- ・7.8ポイント獲得した「自然」では、大通り公園や中島公園、さっぽろらしい街路樹など、都心の中にもさっぽろは自然が豊かであるというイメージを持っていることがわかる。次いで、「都市美」では、さっぽろの景観、街並み、札幌駅の外観などが評価され、今後も大事にしていきたいという意見が多かった。「利便性」については交通の便は良いというイメージであるが、今後は高齢者など、利用するいろいろな層にも使いやすくわかりやすいものを求める意見が多くあげられた。
- ・また、イメージ評価が低かった項目として、「経済性」「創造性」「文化性」があげられた。具体的な意見内容は、今後の商業の活性化やさっぽろを思わせるイベントの発掘、あるいは文化施設の不足などがあげられた。

市民検討会のさっぽろの都心イメージ評価結果



20年後のさっぽろに残したいもの

テーブルディスカッションによってまとめられた意見を「さっぽろ・都市イメージ評価」の8つの項目に分類し、残したいものの意見傾向を把握した。

【結果】

- ・20年後のさっぽろに残したいものの項目として、「自然」「国際性」「文化性」「都心美」の順となった。
- ・最も評価の高い「自然」では、緑や大通り公園、並木道や街路樹など、今あるさっぽろらしい自然を大切にしながら、20年後に向けてもっと増やしていきたいという意見が出ていた。続いて「国際性」では、雪まつりやよさこいなどの国際的なイベント、観光面での国際性の発展などがあがり、「文化性」では赤レンガなどの古い建物や木造建築物、札幌の歴史など、文化財やさっぽろ特有の施設の保存があげられた。
- ・イベントの国際的な発展といった意見は観光に対する意識の高さがうかがえる。これは、札幌市民が観光機能を重要であると認識しているとともに、観光客を迎え入れる意識が高まってきていることが感じ取れる。
- ・また、「都心美」では、さっぽろの街並み、ホワイトイルミネーションの街並み、札幌駅の外観などがあげられた。

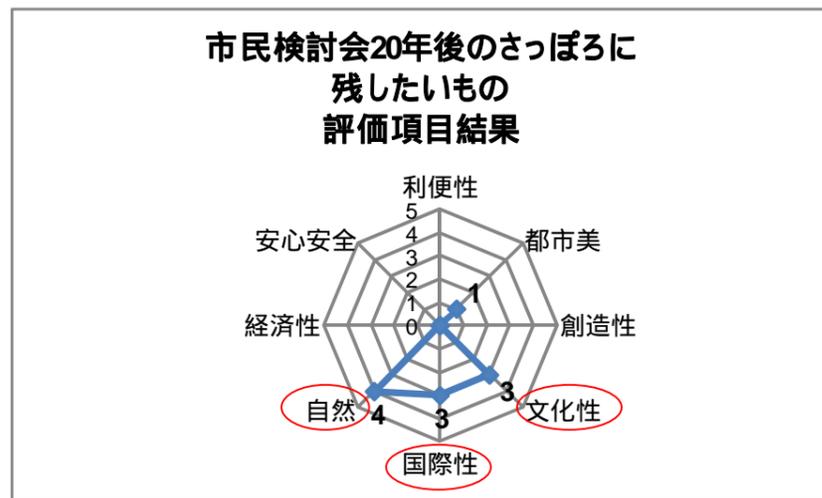
20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿

前項の「残したいもの」と同様に、テーブルディスカッションの結果を3つの短冊にとりまとめ、その意見を8つの項目に分類し、意見傾向を把握した。

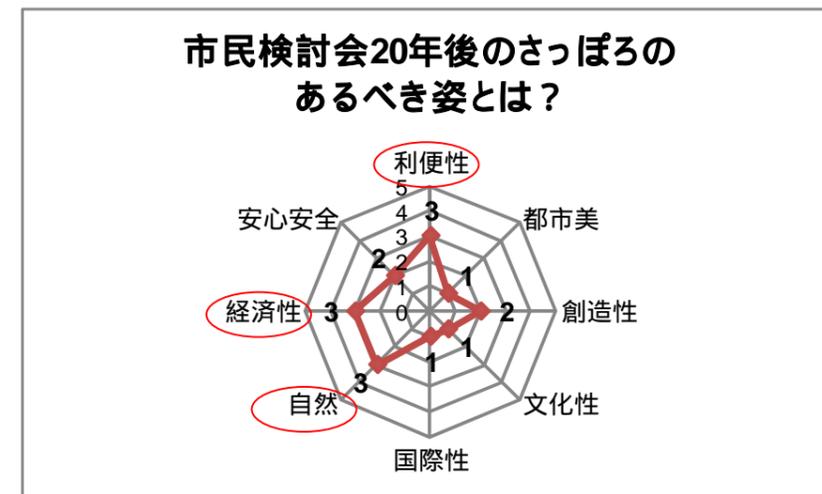
【結果】

- ・20年後のあるべき姿で最も意見が多かったのが「自然」「経済性」「利便性」の順となった。
- ・主な内容は「自然」では、緑の休憩スペース、都市の中の自然などがあげられ、「経済性」では駅以外の商業の活性化、札幌駅と大通り駅の活性化の均等をはかる、「利便性」では、地下空間のネットワークの拡充、高齢者に優しいアクセス、自転車利用可能なまちなどが20年後のあるべき姿ではないかという意見であった。

市民検討会 20年後のさっぽろに残したいもの



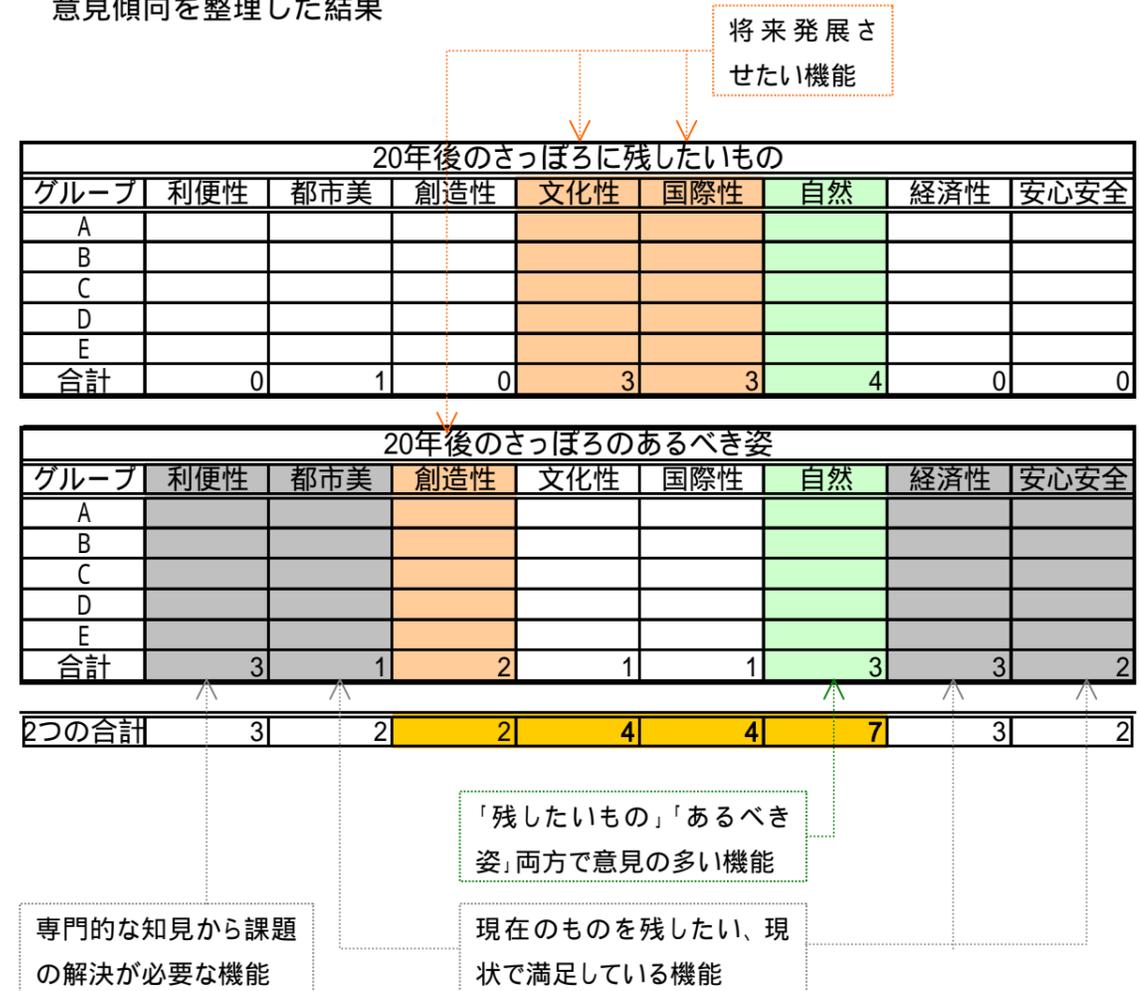
市民検討会 20年後のさっぽろのあるべき姿



考察

- ・「20年後のさっぽろに残したいもの」は、「自然」「国際性」「文化性」「都心美」という結果となり、「20年後のさっぽろのあるべき姿」としては「自然」「利便性」「創造性」「経済性」「安心安全」を意識している結果となった。
- ・「自然」に関しては、「20年後に残したいもの」「20年後のあるべき姿」の両方で意見が多く、自然に関する市民の意識の高さがうかがえる。
- ・「文化性」「国際性」については、「20年後に残したいもの」として意見の多く、その意見内容は「雪まつりなどを国際的なイベント」や「既存施設の有効活用」など、将来に向けた発展に関する意見傾向であった。
- ・「創造性」についても、「20年後のあるべき姿」として「札幌独自のイベントを魅力的に」との意見があり、札幌の独自性を発展させたいという意識が見られる。
- ・逆に「利便性」「都市美」「経済性」「安心安全」については、「20年後のあるべき姿」で意見があがったが、その意見内容は「バリアフリー」「交通結節点機能の強化」といった専門的見地からの解決が必要なことや、「既存の古い建物を残す」「既に札幌駅周辺の商業集積で十分便利」など現在ある機能をそのまま残したい、あるいは、現状で満足している、といった意見傾向であった。
- ・以上の結果から、最も意見の多かった「自然」と、将来に向けて発展させていきたい機能である「文化性」「国際性」「創造性」について検討について深度化が必要であると考えた。

意見傾向を整理した結果



keyword

自然 国際性 文化性 創造性

上記の4つの項目を重点的に次回、第2回市民検討会を進めていくこととした。

(4) 第2回市民検討会
プログラム

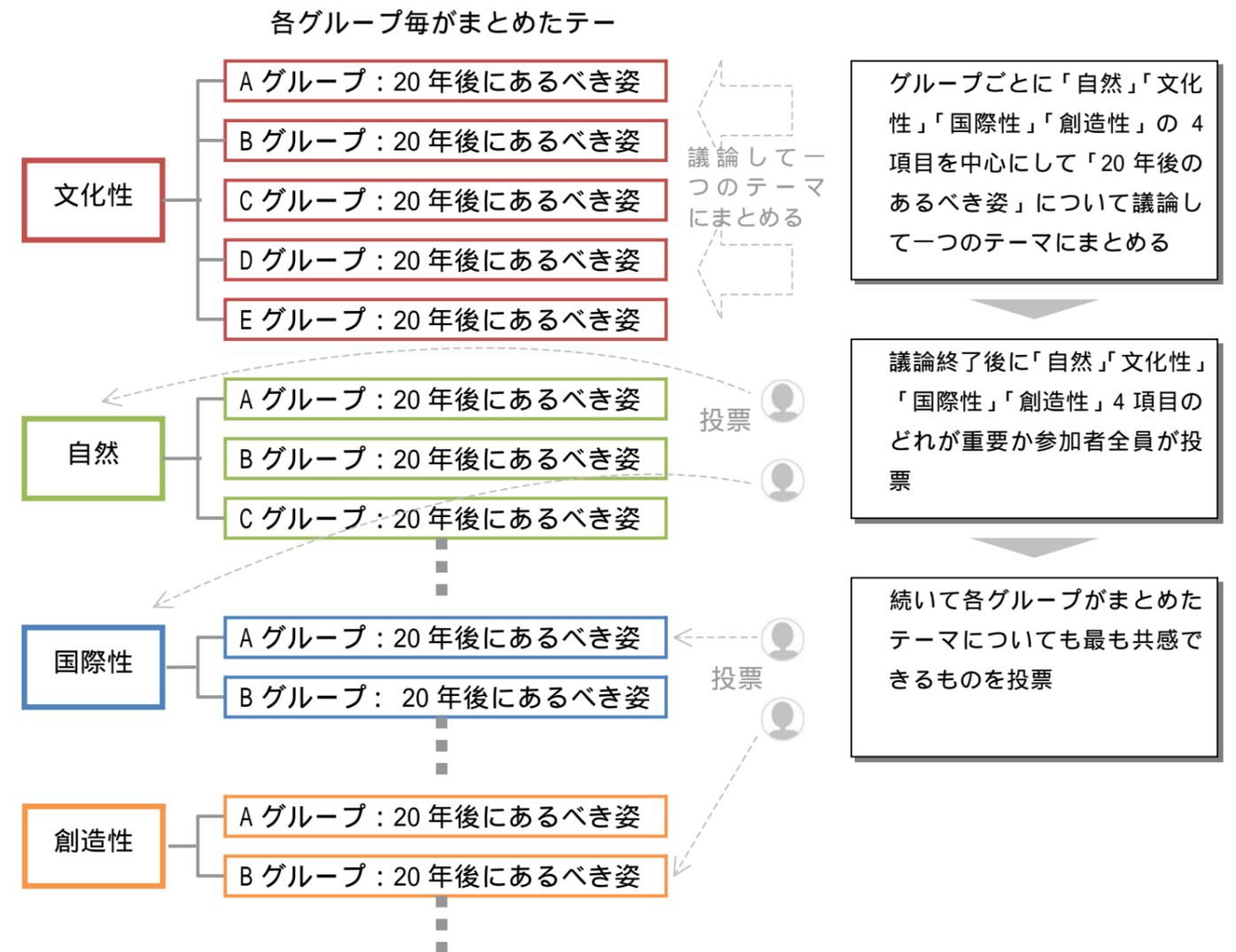
10:00	プログラムについて(5分)	日時: 2月21日(日) 場所: 札幌市役所 6階会議室 参加者: 27名
10:05	前回のふりかえり(10分)	
10:15	情報提供その3(45分) ・第1回市民検討会の結果概要 ・市民アンケート調査結果の概要 ・世界の都市事例(世界都市、創造都市) ・世界の都市事情(産業転換、郊外化、縮小都市など)	
11:00	将来のあり方について意見交換: 午前の部(60分) ・都心のマップをみながら(札幌駅周辺の資源探し) ・20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿 (主に自然、創造性、文化性、国際性について)	
12:00	昼食(60分)	
13:00	将来のあり方について意見交換: 午後の部(75分) ・20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿 (主に自然、創造性、文化性、国際性について)	
14:15	まとめ発表(45分) ・1グループ5分*5(25分) ・どれが優先か: シール投票(10分) ・まとめ(10分)	
15:00	終了	



テーブルディスカッションの結果概要

テーブルディスカッションでは、第1回市民検討会の結果を踏まえて、「自然」「文化性」「国際性」「創造性」の4項目について中心に議論を行った。意見の集約方法は、全部で5つの各グループ毎で話し合った結果を、上記4項目に対して20年後にあるべき姿として必要な考え方をそれぞれまとめることとした。

さらに、どの項目のどのような考え方が重要視されているかについて把握するために、上記4項目と各グループでまとめた考え方に対して重要と思われる内容を参加者全員で投票を行った(結果は次頁参照)。



第2回プランニングセル 市民検討会のテーブルディスカッション結果

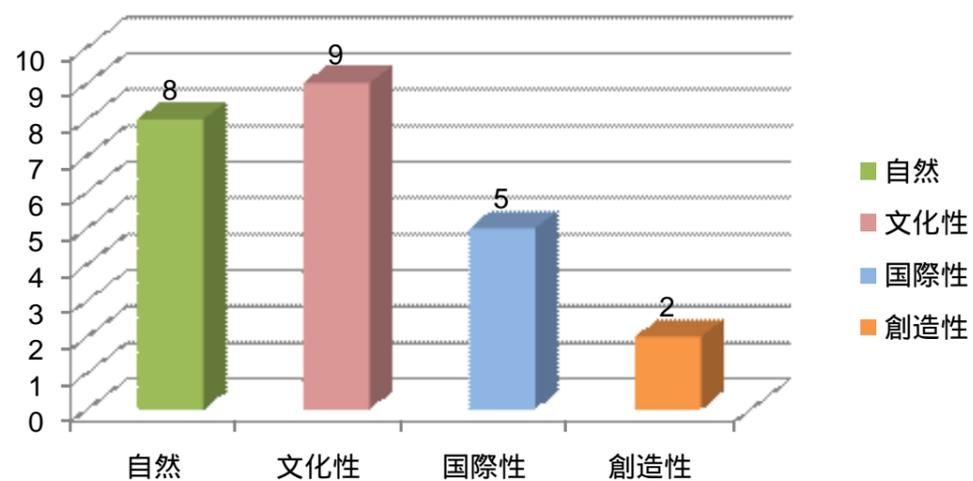
イメージ評価項目		グループごとの20年後の札幌駅と周辺地区の あるべき姿		グループ
項目	投票結果	将来(20年後)のあり方	投票結果	
自然	8ポイント	「動植物と触れ合える緑の憩える広場」	8ポイント	A
		「緑を増やす夢ある自由な広場」	6ポイント	D
		「札幌(手軽に楽しめる老若男女)の自然をまずは市民が知る(親しむ)ことによって、観光客へのPRとアクセスを充実させる。」	6ポイント	E
		「既存の施設を活用し、都心の緑と周辺の緑との調和」	4ポイント	B
		「自然をより豊かにしていこう!(緑・雪・水)」	2ポイント	C
文化性	9ポイント	「地産地消による北海道ならではの食文化の発信」 一次産業の復活、既存のイベントを活かした食の祭典、継続が伝統になる	11ポイント	E
		「札幌らしさを守りながらも歴史や文化をつくっていく」 新しく「トライ」できる「人」「モノ」をつくれるまち	11ポイント	C
		「札幌の人々の気風を活かして文化性を深める」	2ポイント	A
		「北海道の地域文化(食文化、伝統文化)の発信基地をつくろう」	5ポイント	D
		「独自の文化、特徴を活かし発展させる」	0ポイント	B
国際性	5ポイント	「交流の場、発信の場をつくる」 札幌ブランドの国際化	9ポイント	C
		「札幌のシンボルとなる情報発信の場(北海道をPRする場)」	5ポイント	A
		「市が主体となり、国際的な情報発信と交流の場を創出」	0ポイント	B
		「自分たちの足もとを固めてからの国際性」	8ポイント	E
		「地元の人と海外の人の相互理解の場をつくろう」	5ポイント	D

イメージ評価項目		グループごとの20年後の札幌駅と周辺地区の あるべき姿		グループ
項目	投票結果	将来(20年後)のあり方	投票結果	
創造性	2ポイント	「『札幌発』をつくるための環境づくり」(学ぶ場、発表の場)	10ポイント	C
		「常設の舞台(お笑いを含む)を鑑賞できる場がほしい」	1ポイント	D
		「若い芸術家を育てるシステムづくり」「既存の財産(施設を含む)の創造的有効活用」 (市、道、企業の力も借りた継続性、観客を集める)	4ポイント	E
		「古いものと新しいものを融合し、市民が交流の場をもって創り出す」	7ポイント	B
		「食とアートが体感できる市民が参加できる場」	3ポイント	A
利便性	0ポイント	「交通手段の充実と明確化」	0ポイント	A

評価項目ごとのグループ評価と意見

4つのイメージ評価項目の中で、「20年後のさっぽろ駅周辺のあるべき姿」の重要項目は「文化性」となり、次いで「自然」という結果となった。

評価項目ごとの投票結果



テーマごとのグループ意見

グループ投票で獲得数の多かった意見をあげると以下ようになる。

文化性

『地産地消による北海道ならではの食文化の発信』
(一次産業の復活、既存のイベントを活かした食の祭典、継続が伝統になる)

『札幌らしさを守りながらも歴史や文化をつくっていく
新しく「トライ」できる「人」「モノ」をつくれるまち』

自然

『動植物と触れ合える緑の憩える広場』

国際性

『「交流の場、発信の場をつくる」
さっぽろブランドの国際化』

創造性

『札幌発をつくるための環境づくり』
(学ぶ場・発表の場)

多い
参加者の投票結果
少ない

3. 市民意見の傾向に関する考察

市民アンケート

「重視すべき機能」に対する回答から、市民の多くは「商業機能」や「交通乗換機能」などの日常的な機能を重視していることがわかる。

その一方で、札幌駅周辺地区の「イメージを高める」ためには、「広場」、「景観」、「観光案内」といった来訪者を迎え入れる演出や機能が必要とする意見が多い。

自由回答では、来訪者を迎え入れる機能に関する回答が最も多く、次いで利便性に関する意見、観光・文化機能に関する意見が多い。

「重視すべきもの」、「イメージを高めるために必要なもの」、「自由回答」の回答結果から特徴的な内容として、普段市民が利用する機会の少ない観光案内・情報展示施設などの「観光機能」に関する回答が比較的多いことが挙げられる。札幌市民の観光に対する重要性・関心が高まってきていることがわかる。

本調査はアンケート票の2,000人に郵送による調査であったが回答者数が498人（回答率24.5%）と4人に1人が返送により回答している。さらに、設問「自由回答」の記載者数が全回答者498人のうち、396人（記載率79.5%）と非常に高いことから、札幌駅周辺地区の将来に対する市民の関心の高さがうかがえる。

本調査からわかった「札幌駅周辺地区の将来に対する市民の関心の高さ」は、これまで札幌市が市政情報を積極的に提供して、市民の理解と関心を高めるために努めてきた結果が反映されているものと考えられる。

札幌市の情報公開度は「第12回情報公開度ランキング政令市総合ランキング（2007年度）」で全国3位、「第11回情報公開度ランキング政令市総合ランキング（2006年度）」で全国1位となっている（全国市民オンブズマン連絡会議発表）。

市民検討会

第1回・第2回市民検討会ともに最も重要視されていた都市機能は、「自然」であった。第1回市民検討会の結果、将来発展させていきたい機能として「文化性」「国際性」「創造性」が挙げられた。

第2回市民検討会では、第1回市民検討会の結果をもとに、「自然」「文化性」「国際性」「創造性」について中心に検討を行った。

その結果、20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿として、「文化性」「自然」「国際性」「創造性」の順で重要度が高いとの結果が得られた。

「自然」については、市民の親しみと憩いの場として緑のある広場を望む意見に対して評価が高かった。

「文化性」については、一次産業の復活、食文化の発信、伝統的なイベントへの発展など、さっぽろらしさを守りながら新たな歴史や文化をつくっていくことが重要との意見傾向があった。

「国際性」については、札幌ブランドの国際化、市民と外国人の相互理解の場が必要との意見傾向であった。

「創造性」については、学ぶ場や発表の場といった環境づくりを進めて、市民の交流を促進すべきであるとの意見傾向が見られた。

全体の意見傾向としては、イベントの発展や札幌ブランドの国際化といった札幌を外に向けてアピールしたいという気持ちや、市民と外国人の相互理解や市民の交流を促進といった市外と市内の人の交流促進に関心があることがわかる。

市民検討会では、世界や日本全体といった広い視点から札幌駅と周辺地区を考えることに重点を置きプログラムを進めたため、市民からの意見は札幌駅周辺地区に限定されず、札幌都心全体を含めた議論であった。